

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

大宮八幡祭り(秋の大祭)号

第100号記念号

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 26 年 (2014)

大宮八幡祭りを迎えて	2 頁
大宮八幡祭り（秋の大祭）のご案内	3 頁
十五夜の神遊び	4 頁
御鎮座 950 年式年奉祝記念事業	5 頁
社の話題	6 ~ 8 頁
大宮八幡の杜 秋も深まり	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10・11 頁
フォトコンテスト入選発表	12・13 頁
第二回作品募集	
社報 100 号を振り返って	14・15 頁
大宮八幡祭り社頭風景	16 頁



第29回神輿合同宮入り

大宮八幡祭りを迎えて

宮司 鎌日 紀彦



お蔭様で当宮の社報「大宮」も第一〇〇号となりました。年三回の発行で神社と氏子崇敬者を結ぶ広報誌として専ら神社の祭事・行事・出来事をお伝えして参りました。小生は第五三号より係わって参りました。神職の使命として当り前のことはありますが、ご祭神のご神徳の発揚と祭祀の厳修を旨として神明奉仕させて頂き、延いては社頭収入の増収を図る為には、社頭に少しでも多くの氏子崇敬者の方々にご参詣頂きたいとの念頭のもとに、新たに祭事や行事を企画してご奉仕させて頂いております。

最近の祭事としては、7月24日・25日の両日に亘る「納涼 大宮天神ごどもまつり」がありました。近年では当宮設立の幼稚園児や小中学生、一般の方々より奉納の書画行燈を飾り、氏子青年会奉仕の模擬店（夜店）も出て多くの家族連れの参詣者で賑わうようになりましたが、当初はコズミック暦（マヤ暦）を使用されているアーティストの方から一年に一日の特異日（空白の日）である7月25日に「時間をはずした日の祭事」として和太鼓の演奏を奉納したいとの申し出があつた事により始めたものです。25日は天神様の縁日であり、当宮の境内社大宮天満宮の夏祭りとしてご奉仕することに致しました。今ではすっかり夏の風物詩として定着し、「こともあかり神輿」の渡御や神輿振り、「どもみ二花火の集い」も行われ、今年で第14回を数えております。嘗ては1月25日の初天神祭のみでありますましたが、7月は大宮天神ごども祭り、毎月25日には大宮天神月次祭もご奉仕しております。この他には「平安の七夕乞巧奠飾り」があります。「七夕の神遊び」（7月7日）を中心に、二週間に亘り「平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事」や「七夕人形笛飾り」、「職員の奏楽技術の向上を祈る期間中2回の「雅楽と神樂の夕べ」等もあり、これらも第16回目をご奉仕致しました。

さらに秋の大宮八幡祭りを奉祝して重陽の節句「菊被綿飾り」や一二〇〇

基の竹燈籠に献燈して行う「十五夜の神遊び」（仲秋祭）、「月の音舞台」（コンサート）、「月見の宴」（有料）等を年中行事として行つております。

又ご祈願では戌の日には安産祈願で多くの方々にお詣り頂いております。当宮の特色ははその緒で結ばれた母子が健康で出産の時を迎える様にと願いを込め、厚生労働省の事として行つております。

お産腹帯（安産腹帯）を「大宮八幡息長帯」と命名して授与しております。これは当宮のご祭神が応神天皇と仲哀天皇（父）と神功皇后（母）の親子三神であり、この固い絆から子育て八幡さま、子安神と称えられております。特に応神天皇は胎中天皇とも称され御母の胎内にあるときよりご神威を發揮されました。又神功皇后は御腹に応神天皇を既に身籠られたまま天ツ女神の神託により三韓の平定に向かわれましたか。陣痛（出産）を抑える為に石（鎮石）を御裳（袴）の腰帯に巻きつけられてご出陣になり、凱旋後に筑紫国にお戻りになり応神天皇をご出産されました。お産まれになられたらところが字美名と名付けられています。

神功皇后（息長帯比賣命）が陣痛を抑えるため腰帯で石を巻き付けられたこの故事から、当宮で安産祈願した腹帯（岩田帯）を「大宮八幡息長帯」と名付け、お産まれになるお子様とお母様に延長寿命と幸運が授かる様にと祈念して調製しております。尚昨年の御鎮座九百五十年の式年を奉祝していわきの絵のぼり絵師辰昇氏により扁額「子守神功皇后之図」が奉納されております。

神功皇后が赤ちゃんの應神天皇を慈しんでお抱きになられている母子図で、傍らには黒雲（厄）を振り祓いお二人をお守りする武内宿禰の姿が描かれております。母子二神の深い情愛と絆が見事に表され、子守除厄幡さまの当宮に相応しい扁額であります。因みに聖母神、聖母大菩薩として、母子神信仰が伝承されている地域もあります。

以上、社報のバックナンバーより、現在定着しつつある新しく年中行事やご祈願を繙いてみました。これ等については役員総代の皆様のご理解とご支援があつたればこそと感謝致しているところであります。

今年の大宮八幡祭りは新装増築されたご社殿で氏子奉幣祭（9月14日）並びに神社本庁より献幣使ご参向のものと例大祭（9月15日）が斎行されます。また14日に行われる第29回神輿合同宮入りは、氏子6地区より9基の神輿が一体となつて聖なる拝殿前の広場で所狭しと練り広げられ、ご理解とご支援を頂き多額の真心からのご淨財をお集め頂きました賜ものと感謝申し上げている次第でござります。

今年の大宮八幡祭りは新装増築されたご社殿で氏子奉幣祭（9月14日）並びに神社本庁より献幣使ご参向のものと例大祭（9月15日）が斎行されます。また14日に行われる第29回神輿合同宮入りは、氏子6地区より9基の神輿が一体となつて聖なる拝殿前の広場で所狭しと練り広げられ、その神輿振りは祭りの最高潮であります。

昨年の御鎮座九百五十年奉祝大祭の第28回合同宮入りが、当日早朝より台風の影響による豪雨の為、朝の時点で中止となつてしましましただけに、今年の神輿振りに期待されております。

いざれにしても9基一同の神輿振りは城西随一とも云われ、ご社頭は多くの参詣者で賑わいます。熱気溢れる能動的なエネルギーは担ぐ人々も陪観の人々も神々と一緒に感動的です。熱氣溢れの出来る時でも有り、神人合の境地へと高められる神人感應のひと時であります。八幡大神様の広大無辺なご神威をお受け頂くお祭りは、氏子地域の町内会全體や氏子崇敬者の皆様も精神的に一段と高められ、心のバランスも保たれます。

大宮八幡祭りに多くの方々にお詣り頂き、更なるご神縁を結ばれ、心安らかな生活をお送り下さいますよう、ご祈念致しております。

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭、氏子奉幣祭、第二十九回 神輿合同宮入り

夏の暑さも和らぎ、秋の気配を感じる9月、恒例の大宮八幡祭りが行われます。まず13日には夕刻6時に宵宮祭を斎行。翌14日は午前10時より氏子奉幣祭が執り行われ、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の氏子より寄せられるご淨財が氏子幣として大前に奉納されます。また、氏子各地区より神輿の社参が午前中より次々に行われ、午後6時よりの第29回神輿合同宮入りには氏子6地区から9基の神輿が一斉に神門内大前に練り込み、祭は最高潮に達します。15日は午前10時に神社本庁より献幣使参向のもと例祭を斎行。秋の実りの感謝と皇室国家の安泰と氏子崇敬者各位の隆昌発展を祈念いたします。

このほか14日午後には、小笠原宗家による弓の神事三三九手挾式。

13日は、大宮幼稚園児民謡踊り・

杉並太鼓・方南工イサ一踊りなど期間中様々な神賑行事が奉納されます。

す。また9月9日より16日まで清涼殿口ビーでは、重陽の節句菊被縫が展示されます。

6時に宵宮祭を斎行。翌14日は午前10時より氏子奉幣祭が執り行われ、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の氏子より寄せられるご淨財が氏子幣として大前に奉納されます。また、氏子各地区より神輿の社参が午前中より次々に行われ、午後6時よりの第29回神輿合同宮入りには氏子6地区から9基の神輿が一斉に神門内大前に練り込み、祭は最高潮に達します。15日は午前10時に神社本庁より献幣使参向のもと例祭を斎行。秋の実りの感謝と皇室国家の安泰と氏子崇敬者各位の隆昌発展を祈念いたします。



氏子幣を奉じて参進（14日）

大宮八幡祭り期間中の祭事

菊被綿神事 9月8日夕刻～翌朝

神輿神靈入れ祭

9月12日

若宮八幡神社
白幡宮 例祭

9月12日

各神幸所清祓・宮司巡拝

9月13日

宵宮祭

9月13日

氏子奉幣祭

9月14日

第29回 神輿合同宮入り
例祭

9月14日

神輿神靈返し祭

9月15日

十五夜の神遊び（仲秋祭）

9月15日

後朝祭（直会ノ儀）

9月16日

神輿神靈返し祭

9月16日

露店「百二十店」

第36回 献華いけばな小原流展

9月12日～14日

奉茶（裏千家）

9月12日～14日

野点茶会（裏千家）

9月12日～14日

舞楽（伎成雅樂会）
方南エイサ一踊り

9月12日～14日

神賑行事

弓道奉納射会

9月7日

9月9日～16日

第16回 菊被綿飾り

9月9日～16日

9月12日

奉納書画回燈

9月9日～16日

9月12日

献燈提灯

9月9日～16日

9月12日

大宮幼稚園園児神輿宮入り

9月9日～16日

9月12日

大宮幼稚園園児民謡踊り

9月9日～16日

9月13日

杉並太鼓

9月9日～16日

9月13日

スカウトバザー

9月9日～16日

9月14日

町内神輿渡御・社参（昼間）

9月9日～16日

9月14日

スカウト神輿

9月9日～16日

9月14日

小笠原流三三九手挾式

9月9日～16日

9月14日

高井戸囃子

9月9日～16日

9月14日

奉茶（裏千家）

9月9日～16日

9月15日

野点茶会（裏千家）

9月9日～16日

9月15日

舞楽（伎成雅樂会）

9月9日～16日

9月15日

方南エイサ一踊り

9月9日～16日

9月15日

スカウトバザー

（表紙）



表参道の賑わい（13日～15日）

第29回神輿合同宮入り

14日には、大宮八幡祭りのハイライト神輿合同宮入りが行われます。夕刻に、八幡前通りに9基の神輿が集結。木遣りの音頭を合図に午後6時出発。表参道を渡御して7時すぎより次々と神門をくぐり大前に参入します。担ぎながら社殿前に進み全9基揃つての神輿振りは実に圧巻で境内は興奮の渦に包まれます。（表紙）



第16回重陽の節句「菊被綿」

菊被綿は、重陽の前日の9月8日に菊の花を白、赤、黄の真綿で覆つて菊の香りを移し、9日早朝朝露で湿つた真綿を顔にあてて若さを保とうとするもので、平安時代前期に宮中行事に取り入れられ幕末まで行われていました。当宮ではこの菊被綿神事を斎行し、菊被綿飾りを9月9日より16日まで清涼殿口ビーで公開します。



第14回十五夜の神遊び・月の音舞台

旧暦9月13日の十三夜に合わせて、10月5日に第14回十五夜の神遊びが斎行されます。神遊びとは神慰め、神祭りのことです。夕刻まず陪観の人々によつて

○三 (三三三二) 七五二五
大宮八幡宮 清涼殿まで
お申込み・お問い合わせは
宿泊に各次第揃ひなままでの
※宿泊でも十五夜の神遊び「月の音舞台」は行われます

「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後（午後8時頃より）開催します。

名物を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

○三 (三三三二) 七五二五
大宮八幡宮 清涼殿まで
お申込み・お問い合わせは
宿泊に各次第揃ひなままでの
※宿泊でも十五夜の神遊び「月の音舞台」は行われます

【月見御膳】 ◎御神酒付
大人様 5,900円（税込）
限定 100名



音とともに鎮守の杜に響き渡り深く
閑かに心に染み
渡ります。また、
清涼殿ではこの
日に因んだ
特選料理「月
見御膳」をご
賞味いただく
月見の宴も催
されます。



竹燈籠約二〇〇基に火が点され、仲秋祭や雅樂神樂舞の奉奏が行われます。神樂殿での月の音舞台の出演者は、昨年に引き続き広く国内外で注目を集めます。尺八奏者「き乃はち」氏です。

今回三度目となるき乃はち氏の尺八の調べは、名月に照らされながら、虫の音とともに鎮守の杜に響き渡り深く
閑かに心に染み
渡ります。また、
清涼殿ではこの
日に因んだ
特選料理「月
見御膳」をご
賞味いただく
月見の宴も催
されます。



※複数燈でも承ります



献燈提灯奉納のご案内

期間中多くの参拝者をお迎えするに当たり、皆様方のお名前（ご社名）を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂き度く存じております。

つきましては、左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

大宮八幡祭り（秋の大祭）の初穂料一燈一〇〇〇〇円まで
申込締切 9月2日
記 (郵送は1日必着)

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。

御鎮座九百五十年式年奉祝記念事業

御社殿バリアフリー化事業竣工



御鎮座九百五十年記念事業の第1期事業中、最大規模事業として進められていた御社殿バリアフリー化事業が竣工。9月1日朔旦祭に併せ竣工奉告祭また、竣工清祓式が斎行されます。御社殿バリアフリ化は向かって右側（北側）にスロープ設置、南北両石階段に擬宝珠付き高欄とケネット手摺りが設置され、さらに南北両石階段上に銅板葺き御屋根が掛けられ、御社殿に相応しい両翼階段となりました。

御製掛けを奉納



社殿南側 屋根掛



擬宝珠付高欄増設



社殿北側 スロープ設置



社殿北側 屋根掛

当宮神門の左右門柱に掲げてある御製掛け一対がこの程篤志家により新調されました。御鎮座九百五十年式年記念として御奉納頂いたのは株式会社紀文食品様。

御製掛けは縦一・四メートル横0・5メートルの黒塗板製で月毎に明治天皇様を始めとする御製や御歌が掲げられています。

つきましては式年大祭はもとより奉祝行事や、御鎮座九百年遺構の境内整備の集大成と位置付け、境内のバリアフリー化を中心に、記念の諸事業を進めております。

何分この重要な記念事業には相当高額な経費を要する見込みでありますので、二期に分けて計画させて頂きました。

時節柄沢に厳しい時ではあります、引き続き、何卒本事業が達成されますよう本会の志すところを十分ご質察賜り、大宮、方南北。方南南・和田東・和田西・松ノ木の各6地区遭事故の皆様方を始め、崇敬者各位の格別のご篤志を仰ぎ、絶大なるご奉賛に懇願申し上げる次第でございます。

平成二十六年 新春

大宮八幡宮奉賛会

総事業費一億五三〇〇万円

トレイ改修等バリアフリー付帯工事

合計五、四〇〇万円

◇第二期事業

一 結婚式場清涼殿バリアフリー整備
一 祭典費・記念品費・事務費等諸経費
合計九、九〇〇万円

ご奉賛金の勧募

一口（壹万円）以上お願意致します。

尚、五口以上ご奉賛の方々には記念の石碑にお名前を刻し永久に保存させて頂きます。また、一口以上ご奉賛の方々には芳名板（板札）にて受付後、隨時お名前を掲出させて頂きます。

緑豊かな、都心の杜に静まり、氏子崇敬者の心故郷であります当宮は、昨平成二十五年、御鎮座九百五十年式年の佳年を迎え、式年大祭並びに式年奉祝大祭が厳粛に厳粛に斎行されました。

この意義ある式年の佳節に当り、私共の遠い父祖の代より氏子の人々がその時々に、ご神恩に感謝しつつ、一心に赤誠を尽くして嘗々と努力され、鎮守の杜に相応しくご社頭を整備して今に残して下さっている様に、私も先人にも見習い、これから続く子や孫の為にも意義ある記念事業を実施して、氏神信仰に受け継がれてきた尊い伝統を次世代に継承し、報恩感謝の真心を捧げて参りたいと念願致し、平成二四年に奉賛会を結成し奉賛近刊簿活動を実施しております。

◇第一期事業

一、御社殿南北両石階段バリアフリー整備

・スロープ設置事

・擬宝珠付高欄（檜材）増設工事

・クリネット手摺り設置事

・銅板屋根掛上事

・御社殿内門帳の新調

・表参道大幟ポール（二対）設置工事

・南参道鳥居脇御壇・外拝殿及び神門内門帳の新調

・御社殿改修工事

一、結婚式場清涼殿バリアフリー整備

一、階段ケネット手摺り設置工事

一、結婚式場清涼殿「亀の間」改修工事

一、結婚式場清涼殿「ビーチ」階段

カーペット張替工事

一、弓道場振武殿改修工事

一、南参道鳥居脇御壇・外拝殿

一、表参道鳥居脇御壇・外拝殿

記念事業の主な概要

御鎮座九百五十年記念事業・奉賛金募金のお願い

奉賛者芳名簿（その6）

平成26年4月1日～7月31日
(※一万円以上ののみ掲出、敬称略、順不同)

方南南地区

一金伍萬円

(有)相川電気
代最綱相川貞雄
(計壹拾伍萬円)

一金伍萬円

池田 ちよ
梅原 明行
山室 節良
吾妻 靖隆

一金壹萬円

小島 典明
上原 昭明

一金參萬円

細野 伊佐雄
浅井 香久子

一金伍萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍萬円

高江 洋
綾子
山口 昭久
内藤 康代
(計) 萩原千円

一金壹拾萬円

(株)紀文食品
村井 洋
榎原 正巳
(計) 壱拾參萬円

一金伍拾萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍拾萬円

(株)ROMY
内藤 康代
(計) 萩原千円

一金伍拾萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍拾萬円

(株)ROMY
内藤 康代
(計) 萩原千円

一金伍拾萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍拾萬円

(株)ROMY
内藤 康代
(計) 萩原千円

一金伍拾萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍拾萬円

(株)ROMY
内藤 康代
(計) 萩原千円

一金伍拾萬円

柴田 和子
石田 善計
斎藤 幸祐
小林 吉雄
関根 和美

一金伍拾萬円

(株)ROMY
内藤 康代
(計) 萩原千円

平成26年9月1日～9月30日
(※一万円以上ののみ掲出、敬称略、順不同)

杜の話題

春の大祭（わかば祭）斎行

境内の樹木が青葉若葉鮮やかに映る5月初旬当宮春の大祭（わかば祭）

が3日より5日まで行われ多くの参拝者が賑わいました。また、大祭に先立ち4月29日には昭和天皇のご聖徳をお賛え申し上げ、昭和祭を

斎行しました。



期間中には古武道武技や杉並太鼓や方南エイサーの奉納や大宮八幡植木市も開催され終日賑わいを見せました。

が斎行され、皇室国家の安泰・氏子崇敬者の繁栄が記念されました。古武道武技や杉並太鼓や方南エイサーの奉納や大宮八幡植木市も開催され終日賑わいを見せました。



神輿を被災地に松ノ木睦会が姉妹友好神社の仲介で

梅雨の合間の好天の6月15日、当

宮社殿にて、杉並区松ノ木町会・松ノ木睦会の子供神輿の清祓式が行なわれました。宮城県気仙沼市本吉町鎮座の八幡神社（山内義夫宮司）は、東日本大震災の折ご本殿のみ残して、社務所・社宅・蔵・車庫全てが津波により流れ去り、同地区も家屋の70パーセントが津波により流失して、現在も約一千人が避



第15回裏千家献茶式

第15回「裏千家献茶式」が5月14日に行われました。茶道裏千家今日庵鵬雲齋千玄室大宗匠（先代15代家元）ご

奉仕のもと、厳かにご神前に濃茶と薄茶が献じられました。また併せて、裏千家淡交会東京第七西支部の担当主催による奉賛添釜茶会が開かれ、濃茶席・薄



水無月の夏越の大祓神事が6月30日、斎行されました。今年前半の30日、斎行されました。今年前半の知らず知らずに身についた罪穢を祓清め、気持ちを新たにして残る半年を迎える。神門前広場の茅の輪前にて、まず、大祓詞を宣読、切麻と形代にて自祓の儀の後天と地が祓われました。次いで参列員は左右左と茅の輪を三度潜り社殿に進みました。大祓神事に引き続き、大祓社殿では、大祓修了奉告並に大祓詞等淨書奉納奉告祈願祭を斎行。6月21日から29日まで開かれた大宮八幡宮主催



立正佼成会青森教会参拝

難生活を余儀なくされています。祭礼に使う神輿や幟・獅子頭なども格納庫ごと流されました。この度当宮と姉妹友好神社の宮城県岩沼市地区（瀬沼宏章責任役員）の子供神輿が譲渡されることになりました。

当日は、八幡神社宮司とともに及川菊助・高橋剛責任役員、竹駒神社宮司・松ノ木地区総代・松ノ木睦会会長参列のもと、「松ノ木睦会子供神輿引渡奉告祭併せて清祓式」を斎行。大宮八幡宮清涼殿にて直会、その後竹駒神社の車にて気仙沼市吉町八幡神社に運ばれました。今秋の八幡神社例祭（本年は9月7日）には、子供たちの手によって絆の神輿がかつがれることでしょう。

夏越の大祓神事

立正佼成会青森教会の皆様が5月9日、当宮に参拝されました。バース1台にて当日早朝に出発長旅を経て夕刻に来宮、昇殿参拝後、神職の説明を受け、境内を散策されました。

書された、りんどう会はじめ氏子崇敬者41名の大祓詞が大前に奉納されました。

伊勢神宮式年遷宮奉贊会 東京都本部杉並区支部解散式

第六十二回神宮式年遷宮にあたり遷宮奉贊会東京都本部が、平成19年2月に東京大神宮を会場に発足、杉並区では同年大宮八幡宮清涼殿にて同支部設立総会を開催しました。爾来奉贊会杉並区支部による募金活動が氏神神社を中心に行われました。杉並区は東京本部内第4位にあたる目標割当額の131%の奉賛金を達成し本年7月3日、当宮清涼殿にて解散式が行われ、区内神社23社に対して神宮大宮司より感謝状が贈呈されました。尚、第六十二回神宮式年遷宮は昨年10月内宮・外宮の遷御の儀が净暗の中厳修されました。

珍客到来～モモンガ～

7月初旬、神門前樹木の櫻の木に、モモンガが現れました。人づてに聞くところによると、突然の珍客で下から登つていったようです。突然の珍客になり、にわか撮影会になります。



した。当のモモンガは動ずることなく我関せず状態。カラスの様子も気になりましたので一時保護して杜の茂みに放しました。

第16回七夕の神遊び 乞巧奠飾り

平成11年の天皇陛下御即位十年を奉祝して当宮では平安の七夕飾り乞巧奠を再現して、7月1日より15日まで清涼殿で公開しました。乞巧奠は古代中國の魔除けの風習と牽牛織姫の伝説にわが国の棚機女の信仰に結び付いた行事です。



「杜のひびきinおおみや」

乞巧奠飾りの夕べが催され、豊栄舞浦安舞と雅楽の調べが奉奏されました。



りんどう会だより

当宮敬神婦人会（りんどう会）は昭和祭前日の4月28日、わかば祭りを迎えるにあたり御垣内清掃奉仕が行われました。会員らの手により掃き清められ、拭き上げられました。

6月3日、総会を開催。総会後に、

七夕飾りや

乞巧奠飾り

に飾られる可愛らしい小物作りに熱中しました。また、大宮八幡塾

「水無月書き写会」が6月21日より

29日まで

社と共に催で行われました。清らかな心を込めて書きされた大祓詞をご神前に奉納し大神様の大稟威頂くもので30日の大祓神事に続き斎行された大祓詞淨書奉御納奉告祈願祭で神前に奉納されました。また、大宮幼稚園園児が作つた飾りを二つ丁寧に笹に飾り付けた「福笹」約300体は大祓参列のみなさまに授与されました。当会では随時会員を募集しております。お気軽に事務局までお申し出ください。



（技芸上達祈願祭）が斎行され、次いで神



夏の風物詩、「第14回大宮天神こどもまつり」として、大宮幼稚園や近隣の小学校一般の有志の方々よりご奉納いただきました約三百点の書画行燈に夕刻より灯りが入れられ、24日午後5時より大宮天神

（天神祭）が斎行され、次いで神

門前に設けられた桿の葉に七夕人形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした大宮八幡乞巧潜り神事を神職の後に続いて約50名の参列者が

左左右と三度くぐりました。その後清涼殿口ビーに進み乞巧奠を拝礼しました。神門には、大きな笹竹飾りもつくられ参拝者は銘々に願い事を短冊に書き、満開の花咲くよう

午後6時より、こども

もあかりみこしが賑やかに境内を巡り、子供ミニ花火の集いも行われました。また午後6時半より「杜のひ

びきinおおみや」(時間を外した日の神事)として、響道宴氏による和太鼓などの奉納が行われ、境内に迫力のある和太鼓の響が轟き、陪観の方々にご感応いたしました。



夏越しの大祓で納められた形代を灰にして流し清める大祓形代流し旅行が7月27日、28日の両日に亘り旅行が7月27日、28日の両日に亘りました。今年は、25名の参加で群馬県富岡市「ノ宮」に鎮座する上野国二ノ宮貫前神社と長野県上田市に鎮座する生島足島神社を参拝しました。27日、早朝当宮を参拝して出発、関越道・上信越道を進み上野国群馬県へ、一之宮貫前神社を正式参拝して出発し、別所温泉に宿泊、信州最後の旬の料理

大祓形代流し旅行

（常樂寺・北向觀音・安樂寺）を参詣し、ハーモニカ電車で有名な上田電鉄に乗り、生島足島神社を正式参拝、小諸ワインナリーにて昼食をとり夕刻に無事帰着いたしました。



びきinおおみや」(時間を外した日の神事)として、響道宴氏による和太鼓などの奉納が行われ、境内に迫力のある和太鼓の響が轟き、陪観の方々にご感応いたしました。

で信濃旅情を満喫して懇親会にて親睦を深めました。翌日は別所の古刹（常樂寺・北向觀音・安樂寺）を参詣し、ハーモニカ電車で有名な上田電鉄に乗り、生島足島神社を正式参拝、小諸ワインナリーにて昼食をとり夕刻に無事帰着いたしました。

秋の大祭後の主な祭典行事

終戦記念日である8月15日、氏子区域より出征した英靈をお慰めする第31回戦没者慰靈祭が清涼殿特設会場にて、今年も全国戦没者追討式に合わせ正午の時報を合図に黙祷。終わりて慰靈祭となり当宮と兼務社の氏子の英靈329柱に感謝し、慰靈と追悼の誠が捧げられました。

中間報告によると調査対象は旧本殿と拝殿。旧本殿は三間流れ造り。屋根は亜鉛鉄板葺ですが、鉄板下の部材から以前は柿葺であったことが判明しました。また拝殿は唐破風の向拝部分が旧社殿のもの。移築前の塗装は外部、内部共に紅柄漆、一部黒漆塗。

報告は旧本殿及び拝殿向拝は床組、塗装などが改修されているものの移築前の部材をそのまま採用しており、江戸時代のものを現在まで良く残している、と結論づけています。

第31回戦没者慰靈祭

10月中旬 第36回杉並大宮菊花展
11月上旬 新年度神宮大麻煩布始祭
11月15日 氏神神社神符奉戴式
11月23日 月次祭並七五三祝祭
11月31日 新嘗祭
12月13日 第24回杉並花笠祭り
12月23日 天長祭
12月31日 除夜祭
1月1日 歳旦祭
1月2日 小笠原流墓目の儀・大的式
1月3日 元始祭
1月15日 古札焼納祭（どんど焼）

大宮八幡宮氏子青年会だより

当宮氏子青年会は、7月24・25日の納涼大宮天神こどもまつりに摸擬店を出店しました。24日の宵宮祭では、突然の豪雨に見舞われ大わらわでしたが、25日の本まつりには好天に恵まれ、焼きそば・かき氷が飛ぶふようになり、スーパー・ボールすくいなども行われ盛況でした。



ボイスカウト・ガールスカウト募集

ボイスカウト 杉並13団
ガールスカウト 東京62団

小学一年生から 各学年ごとに いつでも入団できます

新穀を神前に
お供えし秋の収穫を感謝する新嘗祭が、勤労感謝の日(11月23日午前10時より斎行されます。このお祭りは五穀豊穣を祈る春の大祭年祭(春の大祭)



秋の豊かな実りに感謝新嘗祭

方々による杉並大宮菊花展が杉並大宮菊の会の主催にて10月中旬より開催されます。「菊作り講習会」で丹精込めて作られた様々な菊の大輪が、4月より毎月に行われた参加者の作品とともに境内を彩ります。



第36回杉並大宮菊花展

と対をなすお祭りで、宮中を始め全国の神社でも行われます。当宮では、大宮幼稚園の稻田で園児たちが丹精込めて植え育てた稲穂をはじめ氏子・崇敬者や企業よりたくさんの新穀・神酒、野菜果物などがご神前に奉納されます。

神符奉戴式を斎行

新穀を神前に
お供えし秋の収穫を感謝する新嘗祭が、勤労感謝の日(11月23日午前10時より斎行されます。このお祭りは五穀豊穣を祈る春の大祭年祭(春の大祭)



第24回杉並花笠祭り

恒例の初冬の風物詩「第24回杉並花笠祭り」が12月13日(土)に、当宮とサミット株式会社の主催、山形県などの後援で開催されます。当日はまず、杉並花笠祭り開催奉告祭を斎行、その後御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では芋



氏神神社神符等

奉戴式が11月

初旬に斎行さ

れます。ご神

前において大宮

大麻・三宝荒神

などの御神札

をお遷しして、

神宮大麻と併せて頒布始め

の由を大神様に御奉告いたしてお

ります。各ご家庭や会社の事務所

の神棚に、神宮大麻や氏神様の新

しいお札をお祀りして清々しく新

年を迎えるでしょう。

平成27乙未年 「新春初祈祷」のご案内

当宮では、平成27乙未年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁榮をお祈りする新春初祈祷を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕させて頂いております。

11月末頃より受付致しておりますので、授与所へお申し出下さい。

また企業や団体関係の皆様には、

仕事始めの1月4日より、ご参拝日時のご予約を承っております。

年の初めに、社員・ご関係の皆様

お揃いで八幡大神様の御神徳を戴かれ、新しい年が幸多きご発展の年となりますようお祈りさせて頂きます。

平成27年の新春を迎えるにあ

たり、神宮大麻頒布始祭並びに

成の日詣りは
子育八幡さまの当宮で

安産祈願のご祈祷を！

※成の日以外でも隠お受けしております
おきながねおひ

ご祈願の方には大宮八幡息長帶(安産腹帶)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様が健康にご出産の時を迎えられます様にとの願いが込められた

「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。

大宮八幡息長帶(安産腹帶)と、
大宮八幡息長帶(安産腹帶)を特



戌の日早見表

(平成26年9月)

(平成27年1月)

1月	12月	11月	10月	9月
10日(土)	5日(金)	11日(火)	6日(月)	12日(金)
22日(木)	17日(水)	23日(日)	18日(土)	24日(水)
は大安の日です			30日(木)	

初宮詣方名鑑

(平成26年3月24日～平成26年7月31日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

坂野瑞樹	北洞瞬	石川慶	伊藤珠穂	原ふたば	戸塚ちひろ
岡田唯生	井上果音	富澤彰太	田中英音	米谷優芽	後藤朱璃
奥隅開理	渡部結衣	上田陽菜子	中島櫻子	高橋芽生	齋藤将實
小笠原杏奈	鈴木瑠莉	國吉陽惺	石川大地	小笠原優成	鈴木翔悟
高橋ほまり	高原昂大	野田環太	村上一花	石塚紗奈	安田珠大
本田鳳磨	手島羽奏	北村芽吹	倉重匠吾	全先桜祐	倉田果音
高橋美乃	田中志季	宮竹通	朝倉光軌	千代田虎朗	津田珠典里
鈴木稜大	加藤美希子	黒坂仁喜	高橋英治	北森瑛人	作山碧音
竹田建乃愛	古殿悠	渡邊士流	伊東杜馬	戸代龍ノ助	畠崎岳大
永野杏菜	山岸春仁	白石遼	落合優凪	池田蒼衣	堀瀬初妃
川俣由希	横内優馬	泰地杏	三上礼菜	山本陽菜	松本実怜
篠田莉鳳	小濱光莉	木村あかね	小山晴輝	後藤結翔	中山恵都
小原依菜	大坂莉央花	二階堂功一	佐々木晴慶	井山健太	太田誠司
制服結女	藤島千世	細田翔慎	佐々木晴慶	齋藤謙信	太田誠司
大類蒼	村田春馬	赤羽櫂	坂口晴香	岩間彩加	岩間彩加
村田虎大朗	岩佐桃花	高橋奏結	坪井奏磨	橋本莉々菜	末松永梧
山内瑠太	進藤悠月	井上寛人	平柳莉良	佐々木将人	西山心晴
小原依菜	原蒼汰	望月莉麻	益山陽太	吉田美凜	折原心遥
阿座上陽馬	田中優衣	今崎亘亮	山家二華	日高悠吾	吉田彩乃
須藤大駕	須藤大駕	渡邊貴樹	立木佑実	川口結子	石原和
鈴木都	漆原嵩彦	谷口英莉加	井出啓太	中野陽菜	小野珠輝
大谷啓人	森要一郎	荻原理玖	加藤煌貴	小野珠輝	川合琉冴
安武駿人	有木咲織	伊豆伊織	佐藤光佑	伊東杜馬	鈴木ことり
茨城明希	樋川咲乃	竹内綾菜	佐藤光佑	戸代龍ノ助	戸代龍ノ助
高山龍信	山本匠眞	眞野創太	坂口晴香	池田蒼衣	堀瀬初妃
神沼かれん	田村海樹	永嶋昊将	大坪絵美実	山本陽菜	松本実怜
生沼彩華	袴田直眞	古澤元輝	稻葉絵美実	後藤結翔	中山恵都
林絵莉	柄谷昂希	河合萌	成島凜乃	井上寛人	太田誠司
白根瑚々	渡邊至穂	山下茉莉	成島凜乃	望月莉麻	太田誠司
白川和花奈	花崎音和	土屋米徳	高木創史	今崎亘亮	太田誠司
加藤駢	渡邊玄太	山本明日美	坂口晴香	坂口晴香	太田誠司
山田勇璃	白倉もえ	齊藤愛	高木創史	大浦悠陽	武野馳
室井柚珠	吉川朋希	水本理久	高木創史	月岡莉緒	伊東杜馬
桑原旺佑	谷川瑞樹	原灯里	坂口晴香	井上寛人	落合優実
清水紗那	熊部聰美	安齊源治	大坪絵美実	坂口晴香	伊東杜馬
白根瑚々	岩田希実	篠原啓志	稻葉絵美実	高木創史	伊東杜馬
守屋颯真	守屋颯真	天野智裕	成島凜乃	井上航太	伊東杜馬
神谷希桜	古谷奏真	横田智裕	青島稜弥	宇田川達太	伊東杜馬
片岡美乃	正岡菜那	横田獅立	稻垣日咲	濱田和弥	伊東杜馬
片岡美乃	鎌田來未	小原康太郎	高橋佐和	池田雪翔	伊東杜馬
中田隼人	高橋望	佐藤華玲	古澤元輝	三浦環	伊東杜馬

子どもたちの成長

長いお休みとなる、夏休みが終わり秋の大祭が終わると幼稚園は、運動会で一色になります。

年少さ



さんは、初めの運動会で、私たちも務めていたのですが、大勢の人がいる中での楽しさも、楽ししく！

と、私たちも務めていたのですが、大勢の人がいる中での楽しさも、楽ししく！

かっこいい走り

跳び、難

いやり取り組むことが大切になります。最後には、クラス対抗リレー！同じゼッケン、同じハチマキ、同じバトンを持って競います。バトンを落とさないか、私たちもハラハラしながら見守ります。

一度経験をしていて、年中さんは、みんなで力を合わせて、目合わせ！と、目的を持つ取り組んでいます。ゴールを切る！



どんぐり通信

おおみやようちえん



い、かわいいかけっこ。友達と協力して行う競技、そしてエアドリームは、子どもたちの頑張りが、沢山見られることでしょう。



この運動会を終えると、本当にいつも子どもたちの成長を感じます。

閉会式では、年長さんから、年中さんへのハチマキのバトンタッチ。来年への期待が高まる時です。

この運動会を終えると、本当にいつも子どもたちの成長を感じます。年少さんは、自信へと繋がり自分の得意な物を見つける事が出来たり、年中さんは、友達関係が充実したり、年長さんは、絆が深まります。今年も、子どもたちの一回りも二回りも大きく成長する姿が、見られると思うと私たちも楽しみです。

教諭

池添百合子

山田杏未	吉澤優人	関根千紗	須田光太朗	粕谷緒未	佐々木拓人	木村理人	橋本芦花	近藤紗友理	渡邊怜	竹内沙良	上田佳桜
川口大輝	内藤眞太郎	小町学	米屋太智	宮崎篤人	暮石柚菜	楠元環希	澤村彩菜	比留間大和	古川愛佳	岡本竜	齊藤圭
川原采和	西田朱莉	濱本悠太	松村岳	永倉千景	古閑よう子	田村ひかり	貴島悠成	片岡広樹	吉岡凜	近藤勇章	曾根あおい
島村一颯	岩崎菜央	長谷川璃歩	中込蒼大	加藤結菜	松浦新	松浦花埜	菊地沙羅	和佐風香	嵐山陽南	中村樺奈	星野栄吏子
武市千桜	兩羽環	渡守武央佑	沼田優衣	宍戸悠真	田中湊人	水野陽希	原口優花	千田真智穂	今井あやめ	米山昊	後藤桃奈
川原結都	横山悠翔	堀口咲	南恵介	吉森章翔	秋山真惟子	田中悠月	富田莉央	田村陽琉	並木唯	古館水助	辺見千咲
佐藤琥太郎	西田奈那	本田歩	鈴木凱士	藤平夕春	神部千智	土肥春輝	田中翔子	齊藤陽斗	古見千咲	杉山大翔	市川侑奈
平野凌多	佐藤奏多	河合玲依	毛利祐喬	中村圭吾	針原優月	上条萌杏	武政美緒	和佐駿也	高橋由羽	三浦朱乃	千田真智穂
北村駿多	乾香蓮	外谷衣都	金畠一輝	渡邊櫻子	福原光穂	新谷風花	脇坂ぐらら	西條遙也	三浦朱乃	金子将大	後藤桃奈
山崎美里	山塚百々	石塚百々	竹内隆正	上野桃佳	森川陽喜	永岡弥生	中村青	戸塚理那	龜山幸ノ介	井上遙香	上田佳桜
長村佑樹	関口陽斗	島崎佑音	古田島彩羽	竹内千華	田中紘子	千田紘子	萩原瑞生	鶴岡咲希	猪又慧	濱中芽依	後見千咲
佐藤琥太郎	西田奈那	岩田晴樹	大野陽向	長田零	竹添玲佳	安間麻人	田中悠月	高橋由羽	西聰一朗	中田陽大	辺見千咲
北村駿多	乾香蓮	菊地真士	大野陽向	竹添玲佳	木村朋輝	安間麻人	安間麻人	三浦朱乃	西聰一朗	高橋宏幸	市川侑奈
山崎美里	山塚百々	本田歩	品竹翔太	坂本千華	有馬梨央	波多野智康	坂本千華	和佐駿也	和佐駿也	高橋由羽	千田真智穂
長村佑樹	関口陽斗	鈴木凱士	渡辺みい	河内野千穂	渡辺みい	渡辺みい	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	後見千咲
佐藤琥太郎	西田奈那	毛利祐喬	小野瀬千鶴	若林凜	岡部華	今井智希	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	金子将大	後見千咲
北村駿多	乾香蓮	大石瑛衣	田中結	庄子咲哉	和出莫大	奥富暎太朗	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	井上遙香	辺見千咲
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	竹内千華	児玉千幸	木村朋輝	木村朋輝	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	辺見千咲
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	内匠快	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	荒陽太	河内野千穂	河内野千穂	河内野千穂	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	金子将大	後見千咲
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	河内野千穂	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	井上遙香	辺見千咲
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	後見千咲
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
長村佑樹	関口陽斗	古田島彩羽	小野瀬千鶴	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
佐藤琥太郎	西田奈那	大野陽向	田中結	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽	市川侑奈
北村駿多	乾香蓮	大野陽向	品竹翔太	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	三浦朱乃	千田真智穂
山崎美里	山塚百々	竹内隆正	渡辺みい	坂本千華	坂本千華	坂本千華	坂本千華	西條遙也	和佐駿也	高橋由羽</td	

御鎮座九百五十年式年記念奉祝 フォトコンテスト入選作品の発表

奉賛会実行委員長賞



フォトコンテスト作品展示風景
(清涼殿ロビー)

昨年、御鎮座九百五十年記念奉祝行事としてフォトコンテストを開催いたしました。近隣の写真店にも御協力をいただき、3月31日までに18名63点の作品が集まりました。杉本恭子審査委員長はじめ、宮司・審査委員方々の厳正なる審査のもと、最優秀作品1点・優秀賞2点ほか各賞が選出されました。また、その他7名が入賞、5月6日には表彰式が行われました。当日は受賞者らが集い、杉本審査委員長を代表にまず正式参拝。次いで大宮八幡宮清涼殿亀の間にて表彰式が行われました。各賞が次々に発表され、審査委員長より講評、各作品のポイントや撮影のコツなどが指摘されました。



宮司賞（最優秀作品）

大野貴義氏『当たれ!』



金賞



審査委員長特別賞

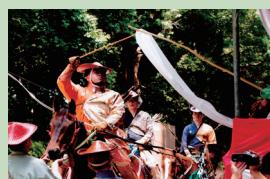


酒井初美氏『奥様、傘をどーぞ!』

永島政和氏『秋の日差し』



銀賞



銀賞



銀賞

堀内幸雄氏『竹林から見た神門』

宮坂幸輝氏
『晴れ姿』

小峯重信氏
『がんばろう日本』

菅野真紀氏
『しあわせ
幸福見守る、カエル。』



銅賞



銅賞

酒井勝氏
『お稚児さん』

一條稜真氏
『どんど焼き』

岩井一真氏
『光彩の神庭』

第二回フォトコンテスト作品募集

都心の中には、豊かな自然に囲まれた当宮は、四季折々に様々な花が咲き誇り木々が生い茂り、参拝者の目を楽しませております。

そんな当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂き、明平成27年の大宮八幡祭り（秋の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様に楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催致します。どうぞ皆様奮ってご参加頂き、ますようご案内申し上げます。



第一回 作品展

平成26年5月1日～

平成27年6月30日

応募期間

協力写真店

ホッタカメラ本店（浜田山）

フォトグラフ三光堂（大宮八幡宮入口）

パレットプラザ永福町店（永福町）

カメラハウス本店（久我山）

ストックワーク（中野）

◆応募票に必要事項を記入して、右記協力写真店に持ち込むと、

参加作品に限りプリント代20%オフの特典があります。

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。（※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きます。）

Aコース…2L・Sサイズ部門
Bコース…4ツ切サイズ部門

大宮八幡宮に関係した作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

プロ・アマ・年齢不問
小・中・高校の学生さんも歓迎！

両コース共に、写真店での現像にてご応募下さい。（一人5点まで）応募作品についての注意事項は、社頭やHP上にて要項をご確認下さい。

祝七五三詣

七五三年齢表
七歳 女児 男児
五歳 女児 男児
三歳 女児 男児
平成20年生 平成22年生 平成24年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：毎日朝10時～夕方5時まで開催

緑豊かな都心の杜。
感動の瞬間

初 宮 詣
集 宴 会

衣装・美容着付・写真・
初宮饗膳（ご会食）など
承ります。

清涼殿

03(3312)7515

清涼殿を出た右手に「幸福撫でができる」石があります。幸福が得られるようにと祈念して、当宮御鎮座九百五十年式年の記念に名付けられました。結婚式や露宴、あるいはお祝いの席の後に、ぜひ「幸福撫で」がえれる「石を撫でて、更なる幸せが訪れる」と願っております。



幸福撫でがえる石

社報「大宮」第一〇〇号を振り返つて

——当宮三十有余年の歩み——

氏神と氏子の交流を目指して

昭和56年8月1日、社報第一号が創刊されてより今号で一〇〇号を重ねました。新春、春大祭、秋大祭の年三回の発行で既に32年の年月が経過しましたが、社報の記事をピックアップして当呂の歩みを見てみたいと思います。

第一号創刊の辞では「氏神と氏子の親密な交流を計り、神社の働きを平素より知つていただくため」と創刊の目的を記していますが、一二号では大宮八幡の今昔を語るとして当時の責任役員様に昔日の思い出などを語つて貢うところから社報は出发しました。合わせて新社務所や社号標の建設など進行中の諸事業の紹介も行いました。また大宮幼稚園の活動紹介として「幼稚園たより」を掲載したのも一号からです。

昭和58年新春号（五号）では一面で竣工なった新社務所を紹介、御奉賛に感謝申し上げました。

また59年春大祭号（九号）では南参道大鳥居の建設などを特集、初めて表紙をカラーハードカバー化、朱塗りの色映える社報となりました。この頃「窓のささやき」も設けられ、神社からみた社会事象への寸評のコーナーとなりました。

昭和60年9月、当宮御鎮座九百二十一年大祭が斎行され、南参道大鳥居竣工など「四号」から「七号」にわたり、九百二十年関係の諸行事諸事業が紙面

を賑わせました。昭和62年正月の一七号ではチャリティ青空市を掲載、収益金は世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の世界の一食運動に充てられることを紹介しましたが、現在も春のわかば祭りにユニセフバザーとして行われています。

昭和から平成に大御代が代わると5年は当宮御鎮座九百三十年。皇太子殿下御成婚の慶事も迎え、御成婚並御鎮座九百三十年奉祝の例大祭を斎行、5年9月の三七号は御鎮座九百三十年奉祝号として作成されました。

また著名人の参拝が相次ぐようになつたのもこの頃から。地元と縁りの若乃花、貴乃花の両横綱にはお子様の初宮詣でや七五三詣でで度々ご参拝を頂きました。また三杉里閑は身体健勝を祈願、俳優の内場浩司さんや西武ライオンズの松井稼頭央選手がご参拝。

平成11年11月には石原伸晃衆議院議員（現環境大臣）のご子息のお宮参りで石原都知事らご一家全員でご参拝を頂きました（五七号）。

昭和58年から始まり、毎年夏の風物詩として開催される「納涼大宮天神まつり」が、平成11年から「夏の風物詩」として開催されています。この夏の風物詩は、毎年夏の風物詩として開催されています。

九百四十年奉祝「十五夜の神遊び」大宮八幡宮の社薪能も奉仕され

こうした新しい行事の取り組みを進める中平成15年には当宮御鎮座九百四十年を迎えることになりました。九百四十年では役員総代により奉賛会実行委員会を組織、特殊装飾など神門前参道広場、社号標建立など南参道、赤門の基礎上げなど北参道の各整備事業を実施。平成15年9月には御鎮座九百四十年記念大祭が斎行されました。

この九百四十年を奉祝して14年9月20日夕、第一回「十五夜の神遊び」が催されました。御社殿前の竹灯の浮き蝋燭数百基に淨火が点され、仲秋祭を斎行。その後毎年杉並区文化協会の後援を得て「月の音舞台」を開催。今では竹燈も一二〇〇基を数えるようになり、清涼殿で「月見の宴」も催され、鳴虫すくなく名月のもと秋の一夜を楽しんで頂いております。

またこの年平成11年春には第一回の裏千家お家元（奉仕による献茶式）が杉並区内初の行事として催され、以降裏千家今日庵千宗至尙氏、前お家元千玄室大宗匠のご奉仕で毎年春に行って頂いています。（五五号）。

夏の風物詩

納涼大宮天神まつり

平成11年、天皇陛下御即位十周年の佳年を奉祝して始められたのが平安の七夕神事「乞巧奠」（五五号）と重陽の節句の「菊被綿」です。乞巧奠は古代中国の魔除けの風習と牽牛織女伝説

と结合起来。また当宮夏の風物詩として平成13年より天神様のご縁日の7月25日に、境内大宮天満宮で「納涼大宮天神祭り」を奉能樂師等のご奉仕で平成25年まで十回

を数えました。

エポックメイクな一〇年を

この御鎮座九百四十年の平成15年より御鎮座九百五十年を迎える平成25年までの10年の歩みも三笠宮殿下御参拝、御祭神應神天皇一千七百年大祭と当宮史にとつてもエポックメイキングな10年となりました。

平成18年新春号(七四号)劈頭の「丙戌歳の年頭に思う」(宮司巻頭言)は前年晚秋に出された首相の詔問機関による女系天皇否認論、皇統の危機への憂憤を表すものでした。

翌七五号の「この國を愛する心」(同)

では秋篠宮妃殿下ご懷妊のニュースを「神風が吹いたが如く」とお伝えし、七七号に悠仁親王殿下ご誕誕を掲載することが出来ましたのは何か社報を通じて祈りが御祭神に届いたようでした。

この同じ七七号では氏子内より長年待たれていた当宮敬神婦人会りんどう会の18年9月発会を伝えてます。小正月どんど焼きでのぜんざい配布や夏越大祓の大宮八幡塾書写会など同会の活動は社報で折に触れて取り上げてきました。

当宮初の皇族殿下御参拝

平成20年10月31日は九百五十年の当宮史に取つても特に明記すべき日となりました。それは三笠宮殿下の御参拝です(八三号)。

この日正午、三笠宮同妃両殿下には當宮に御到着、清涼殿貴賓室にて御小

憩のあと、宮司先導で社殿に進まれ、修祓、豊采舞のあと玉串拝礼。殿下、妃殿下が各々紅白の立玉串を御奉奠、御親拝遊びされました。

次いで記念の植樹として高野櫻をお手植え、杉並大呂菊花展を御覧頂きました。境内御散策のあと清涼殿で催された殿下の御著書『わが歴史研究の七十』の御出版のお祝いの会に臨まれました。

お祝いの会には古代エジプト学を始め殿下に親しいオリエント研究者が出席、当宮宮司夫妻も陪席し、和やかに御歓談。両殿下もおくつろぎのご様子でした。

御即位二十年と御祭神を千七百年

翌平成21年は天皇陛下御即位二〇年・両陛下御成婚五十年のめでたき年であり、当宮では御即位二十年奉祝記念事業として清涼殿二階の集宴会場の改修工事を実施。環境面を重視したデザインにより効率的で使い易い施設として同年秋リニューアルオープンしました。(八五号)

そして平成22年は御祭神應神天皇一千七百年式年祭の年。当宮では一千七百年式年祭記念のわかば祭り(春の大祭)と大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭・氏子奉幣祭を奉仕、御神威の愈々の発揚を乞願いました。またこの年は大宮幼稚園創立六十周年の年でもあります。創立六十周年記念大会を開催しました。(八七・八八号)

平成23年3月11日の東日本大震災。当宮では日々起る余震や放射線災害

等の沈静化と一日も早い復興を願い3月20日東日本大震災復興祈願祭を行。WCRP(世界宗教者平和會議)日本委員会を通じて被災地への復興支援活動を行いました。(九〇号)

また24年2月には御鎮座九百五十年を前に氏子の青年の力を結集しようと日本青年会が発足しました。(九三号)

御鎮座九百五十年式年 社頭整備の集大成事業として

そして平成25年。当宮が源頼義公・義家公によってこの地に創建されてもう九百五十年の式年を迎えました。御鎮座九百年には現社殿の造営と清涼殿の建設など現在の結構が築かれ、その後の周年事業によって各種境内整備が進められてきましたが、

九百年以降の集大成としてこの御鎮座九百五十年記念事業に着手、御社殿北側向拝のスローパー付設、御社殿南北向拝石階段屋根掛工事及び手摺り付設

九百五十年奉祝大祭並氏子奉幣祭には氏子六地区よりの淨財が氏子幣として大前

年に奉獻されました。また16日には当宮初の神事として「いけばな小原流・献花式」がお家元御名代ご奉仕により斎行。

また11月24日には奉祝の志野流香道

表参道石階段手摺り付設などの境内の

パリアフリー化が現在進められています。

この御造営事業と同時に平成25年春から秋にかけ御鎮座九百五十年式年の諸祭儀諸行事が執行されました。

まづ5月3日より6日にわたり御鎮座九百五十年式年大祭を斎行。5日に本宮石清水八幡宮より「下賜の勅祭・石清水祭」「御花神饌」がお供えされるなか式年大祭当日祭を斎行。神社本庁献幣使としてご参向の田中恆清神社本庁総長(石清水八幡宮宮司)が神社本庁よりの幣帛を献じ祭詞を奏上。

そして平成22年は御祭神應神天皇一千七百年式年祭の年。当宮では一千七百年式年祭記念のわかば祭り(春の大祭)と大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭・氏子奉幣祭を奉仕、御神威の愈々の発揚を乞願いました。またこの年は大宮幼稚園創立六十周年の年でもあります。創立六十周年記念大会を開催しました。(八七・八八号)

平成23年3月11日の東日本大震災。当宮では日々起る余震や放射線災害

また本宮石清水八幡宮幣及び全国八幡宮連合幣が奉幣使・同連合六井伸久総理より奉られました。続く直会では田中総長、立正佼成会庭野白鷹会長、石原伸晃環境大臣よりご挨拶を賜りました。(九七号)

ついで5月26日午前、式年大祭奉祝の中心的行事、小笠原流・流鏑馬神事が境内表参道の特設馬場を会場に第一門のご奉仕で御鎮座九百年以来、五十一年振りに斎行され、鎌倉の武者絵巻が三十一代宗家小笠原清忠氏ら小笠原一族の神事として「いけばな小原流・献花式」がお家元御名代ご奉仕により斎行。

また11月24日には奉祝の志野流香道表参道石階段手摺り付設などの境内のパリアフリー化が現在進められています。

この御造営事業と同時に平成25年春をめぐりながら「一〇〇号の歩みを振り返ってみました。九百五十年の悠久の流れの中のたかだか三十多年の社報史ですが各頁の背後に読者の皆様方の強い崇敬の思いが垣間見えてくるようです。

第一〇〇号に当たつて「神社の働きを平素から知つて頂く」という創刊の趣旨に立ち返り、愈々神社の情報発信活動を盛んにしてまいる所存です。ご理解とご協力の程をお願いします。

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月13~15日

例祭 [15日 午前10時]・氏子奉幣祭 [14日 午前10時]



豊穣感謝と皇室国家安泰を祈念し祝詞奏上



赤誠籠もる氏子幣を神前に供え、氏子祈願詞奏上



神楽浦安の舞の奉奏

第29回 神輿合同宮入り [14日 午後6時 大宮宮元會神幸所前御発輿]



江戸消防記念会第九区八番組による木遣り奉納



勇壮な神輿振り



9基が揃って社殿前に宮入り

氏子町会神幸所

大宮地区

大宮宮元會神幸所

方南地区（南・北）

峰睦会神幸所

新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所（上）

方南東神幸所（下）

（峯栄会神幸所）

和田地区（東・西）

和田睦会神幸所

和田教神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

大宮 第100号

平成26年 秋の大祭号

平成26年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話 (3311)0105 FAX(3318)6100

Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

奉納 神賑行事



献華いけばな 小原流展 [12~16日]



杉並太鼓 [13日]



大宮幼稚園児民謡踊り [13日]



小笠原流三三九手挾式 [14日]



伎成雅樂会による舞楽の奉奏 [15日]



方南エイサー踊り [15日]